

令和3年度 東部教育事務所指定
「はばたく群馬の指導プラン」推進校 研究発表会

<研修主題>

「自分の考えをもち、学び合いを通し
深く学ぶ児童の育成」
～対話的な学びを取り入れた授業づくりを通して～

令和4年 1月25日（火）

みどり市立大間々北小学校

1. 学校紹介

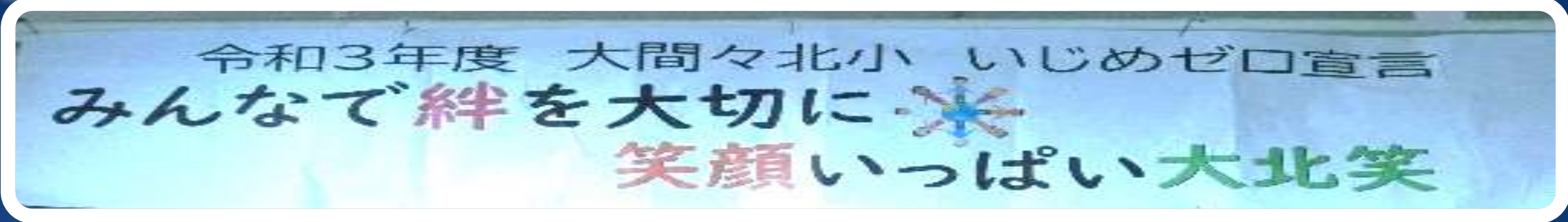
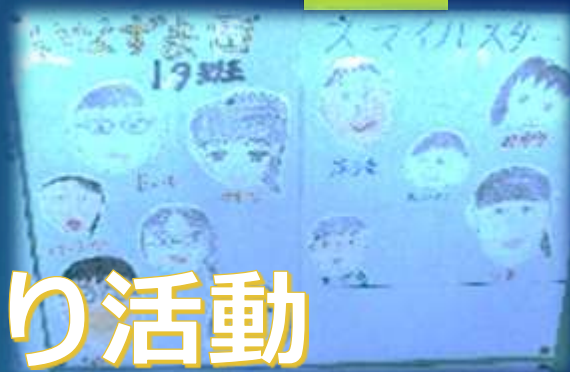
大間々北小は、こんな学校です！



笑顔



たてわり活動



にここ集会



北小まつり



学校教育目標

(1) 基本目標


基礎・基本を身に付け、豊かな心をはぐくみ、
心身ともに健康でたくましく生きる子どもを
育てる。



(2) めざす児童像

 『進んで学ぶ子』 になろう。 **(かしこく)**

 『思いやりのある子』 になろう。 **(やさしく)**

 『ねばり強い子』 になろう。 **(たくましく)**



学力向上計画

令和3年度 学力向上計画

みどり市立大間々北小学校

	担当	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
取組Ⅰ 教育課程の改善・充実 ・めあて、振り返りを意識した授業 ・協働的な学びを取り入れた授業の充実等	校長 研修主任 学力向上 エグゼクティブ	「はばたく群馬の指導プラン」に基づいた、自分の考えを持ち、自分の学びを広げたり深めたりできる対話的な学習を取り入れた授業づくり ねらいを明確にした学校行事、学年行事等の計画・実施										学校評価・子どもの実態に基づく評価・改善	
取組Ⅱ 指導体制の工夫 ・教科指導制 ・学習規律の徹底 ・補習体制の確立等	教務主任 特配 教科担当 学力向上 エグゼクティブ	指導体制づくり パワーアップタイム 補充学習	特配教員等による教科担当制・習熟度別指導の工夫 基礎的・基本的事項の学習・活用力向上のための学習 下学年からの基礎的・基本的事項の補充学習									学校評価・子どもの実態に基づく来年度に向けての評価	
取組Ⅲ 指導力の向上 ・校内研修の活性化 ・管理職等の日常的な指導・助言等	校長 研修主任 学力向上 エグゼクティブ	研修主題・内容の検討 前期指導 主事 訪問	研修主題・内容の改善 資質向上研修の実施							成果と課題 次年度の方向性検討 後期指導 主事 訪問	子どもの実態に基づいた授業分析・評価		
取組Ⅳ 家庭・地域との連携 ・家庭学習の工夫 ・地域ボランティアを活用した授業行事等	学年主任 学力向上 エグゼクティブ	「家庭学習の手引き」の作成・配布 学校支援センター ボランティア名簿の作成	主体的な学びにつながる家庭学習の仕方の検討・「家庭学習の手引き」の作成 地域ボランティアを活用した授業、行事等の実施									学校評価・子どもの実態に基づく来年度に向けての評価	
取組Ⅴ 学力調査等の分析・活用 ・国語算数グループの実施	学年主任 学力向上 エグゼクティブ 研修主任	全国学力 学習状況 調査 第1回目 国語算数 グループ	問題分析 学力向上策の修正、実践	全国学力学習状況 調査結果分析	学力向上策の修正、実践	第2回目 国語算数 グループ	グループ別結果分析 学力向上策の修正、実践	第3回目 国語算数 グループ	目標分析 学力向上策の修正、実践 グループ別結果分析 学力向上策の修正、実践	みどり市 標準学力 調査 第3回目 国語算数 グループ	学力向上策の修正、実践		

学力向上

●教育課程の改善・充実

- ・朝読書（読み聞かせ）・パワーアップタイム
- ・全国学力・学習状況調査・市学力調査の分析
- ・国語・算数グループ
- ・めあて、振り返りを意識した授業や、協働的な学びを取り入れた授業の充実

●指導体制の工夫

- ・特配教員等による教科担当制の実施と
- ・補充学習

●家庭、地域との連携

- ・「元気7点（アウトメディア含）」の実施
- ・主体的な学びにつながる「家庭学習の手引き」の配布
- ・地域ボランティアを活用した授業、行事の実施

●授業の改善、指導力の向上

- ・国語
音読カード、読書指導の充実
（県立図書館・大間々図書館から蔵書を借用）
- ・算数
ノート指導の共通理解
- ・全教科
ICT端末の活用
ホワイトボードの活用
- ・学習規律の徹底
「ハンドサイン」「発表の仕方～型」
「声のものさし」「学習に必要な道具」
の共通理解

2. 昨年度まで

昨年度の大北小①

コロナ禍

- ▶ 休校
- ▶ 分散登校
- ▶ 新しい生活様式
- ▶ 授業での対策



授業改善研修＋資質向上研修

- ▶ ミドルリーダーの活躍
- ▶ 組織的な取組



チーム大北笑

BNS

(ピクノースマイル)

資質向上研修の様子



オンライン研修



メンター研修 生徒指導



体育授業の構想 (ティーボール・三目ならべ・50m走の工夫)

昨年度の大北小②





授業改善研修

- コロナ禍で対話的な学びを取り入れた授業づくりは難しい・・・

- ▶ ハンドサイン、発表の型の見直し
- ▶ 授業時数削減による教育課程の見直し
- ▶ ICT端末活用研修
- ▶ 授業参観ウィーク



- ハンドサイン、聞き方、話し方の共通理解
- 組織的に授業づくりを進める体制
- 授業力向上
 - ▲発表や話し合いに抵抗を感じている児童
 - ▲主体的・対話的な深い学びにするための基本を教師が身に付ける。

					発表のしかた (三・四年)
わからない	反対	つけたし	賛成	意見・感想	
よくわかりませんが、 考え中です。 うだと思いません。	そのわけは うだからです。 〇〇さんの意見に反対です。	〇〇さんの意見につけたします。	〇〇さんの意見に賛成です。 そのわけは うだからです。	うです。 うです。 うだと思いません。 (それはうだからです。)	



昨年度の大北小③ R2校内研修報告書より

3 目標(成長した子どもの姿)と手立て

授業改善研修

- 目標(主題)
自分の考えをもち、学び合いを通し深く学ぶ児童の育成
～対話的な学びを取り入れた授業づくりを通して～
- 具体的な手立て
 - ア 「ハンドサイン」、「発表の仕方～型」を全クラスで活用し、自分の考えを明らかにして、話し合い活動を行う。
 - イ 聞くとき・話すときの自己評価、他己評価を行い、聞き方名人・話し方名人を目指す。
 - ウ 多様な考え方に触れ、自分の学びを広げたり深めたりできるような対話的な場面設定の工夫をする。
 - エ 生活を見直す「げんき7点」を活用したノーメディアの実施と継続、国語・算数グループ実施、さらに家庭学習の取り組みを充実させる。
 - オ 生徒指導部や教育相談部だけでなく、児童の情報交換を職員会議でも行い、全職員で情報を共有し、対応していく。

資質向上研修

- 目標 **チーム大北笑**
- 具体的な手立て
 - カ 職員がどんな研修をやりたいか、どんな研修が必要かを話し合ったり、アンケートをとったりして、より詳細な情報を集める。
 - キ 情報を共有し、いつでも報告・連絡・相談し合える職場になるよう明るく楽しい雰囲気を作る。
 - ク 中心になって進めてもらう講師の準備や必要な時期に資質向上研修が行えるよう、計画を立てる。
 - ケ 体力アップとリフレッシュもかねて職員間の豊かな交流を行う。



4 研修のスケジュール<別紙> 5 実践の詳細

・学校教育の指針
・**はばたく群馬の指導プランII**

昨年度の大北小④ R2校内研修報告書より

6 成果と課題

授業改善研修

①有効だった手立て

○「**ハンドサイン**」、「**発表の仕方～型**」を全クラスで活用し、自分の考えを明らかにして、話し合い活動を実践したことは、対話的な場面設定ができただけでなく、教員の**授業力の向上**にも有効であった。

②一年間の取組の成果と課題について

○授業参観ウィークを取り入れたことで、日頃から互いの**授業を参観し合える雰囲気**ができた。また、複数の教員で意見交換がなされ、**授業づくりをすすめる体制**づくりができた。

○「**ハンドサイン**」の活用方法を見直すことができたことで、コロナ禍での授業づくりの中に、**対話的な学びの場を設定**することができた。発表の仕方だけでなく、聞き方の指導にもつなげることができた。

●**発表が苦手**と感じる児童にとって、**発表や話し合いに抵抗**を感じていると考えるので、**主体的・対話的な深い学びにするための授業づくりの基本**を教師が身につけ、**授業を改善していく必要がある**。

●学校評価アンケートから、「**授業が楽しい**」、「**自分が考えたことを発表している**」や「**友達と発表し合ったり話し合ったりするのが好き**」の項目が低く、学校課題といえる。この課題を踏まえながら、**授業改善の目標を設定していく必要がある**。

資質向上研修

①有効だった研修

○資質向上研修は、計画的かつ臨機応変に設定できたため、本校の課題に素早く向き合うことができた。また、分掌や得意分野を生かすことで、**ミドルリーダーの活躍**につなげることができた。

○コロナ対策のための体育授業の構想では、授業のつくり方を共通理解できただけでなく、**職員の協働体制**づくりに有効なものとなった。

○オンライン会議やタブレット活用の研修ができたことで、オンラインによる学校行事の実践に生かすことができた。

○学力向上に向けて、国語・算数グランプリを各学年で実施した。その際、カードにめあてや振り返り、賞賛シールを貼って意欲付けを行うことができた。また、グランプリを活用して学力テストに向けた対策を行い、全職員で児童に育てたい学力を共有して取り組めた。

②課題が残った研修

●**職員のニーズ**に合わせられるよう工夫していく。

●研修の場を効果的に活用し、**業務改善**に結びつけられるようにする。

●**新学習指導要領を踏まえた学習指導と評価**についての**共通理解**を図っていく。

授業を進める中で、先生たちが感じる課題や悩み

課題や悩み

- ・ 児童の学習に対する**関心、意欲**を高めたい。
- ・ **自分の考えや、考えの根拠を説明**できない。
- ・ 45分間で**まとめや振り返り**までいかない。
- ・ ノート指導の統一が難しい。
- ・ 新学習指導要領実施をふまえた授業づくりへの不安。
- ・ **ICT端末の有効活用が十分ではない。**

(はばプラⅡ第1章より)

「主体的・対話的で深い学び」にするための授業づくりの基本

①児童生徒にとっての**単元及び題材の課題を設定**する。

②単元及び題材の解決（目標への到達）に向け、各単位時間をつなげる。

③多様な考え方に触れ、自分の学びを広げたり深めたりできるような**対話的な場面**をつくる。

④主体的に学び、学んだことを次の学習に活用できるように、各単位時間での「**めあて**」の設定と「**振り返り**」の場面をつくる。



はばプラⅡ

本校の課題を解決するために、
はばプラⅡ・ICTバージョンが役立ちそう！



はばプラⅡ
ICTバージョン

3. 今年度の研修

《主題》

自分の考えをもち、学び合いを通し深く学ぶ児童の育成
～対話的な学びを取り入れた授業づくりを通して～

BNS！全職員で

全教科で

**対話的な学習を取り入れた
授業づくり**



はばプラⅡ研修スタート

めざす児童像

自分の考えをもち、学び合いを通し深く学ぶ児童の育成
～対話的な学びを取り入れた授業づくりを通して～

1・2年	自分の考えをもち、友だちに伝えることができる児童
3・4年	相手に分かりやすい言葉や文章で表現することができる児童
5・6年	自分の意見を友だちの意見と比較して考え、表現できる児童

わかった！

できた！



うれしい！

笑顔が増える

授業改善研修

+

資質向上研修

研修推進計画（4月～7月）

	はばプラⅡにそった授業改善研修	資質向上研修等
4月	○全体会 研修主題、副主題決定 【公開授業の実施学年・教科・単元・授業者等の決定】	
5月	○東部指導主事研修会 授業公開（算数・国語・道徳）教科別協議に参加 ○第1回研修会(木村主任指導主事、高柳指導主事、高草木指導主事) 「はばプラⅡを基にした授業づくり」「ICTの活用」 ○全体会 校内研修方向性の確認	<ul style="list-style-type: none"> ・トピック研修(ICT端末推進担当) 学習支援ソフトの活用 ・救急救命法（養護・体育主任） ・トピック研修(学力向上担当) ノートづくりの確認・学習支援ソフトの活用
6月	【学校訪問(日程、内容、今後の予定について確認)】 ○はばプラⅡ研修講座（公開授業実践者） 「はばプラⅡ」に基づく指導のポイント ○全体会 「主体的」「めあて」「振り返り」「目指す児童像」の共通理解	<ul style="list-style-type: none"> ・トピック研修（校内職員） 研修報告「めあて」と「振り返り」 ・トピック研修（校内職員） ハンドサインの活用術 ・「社会に変革を起こす子どもの育成」 群大付属小公開研 ICT機器を用いた授業実践を視聴 ・生活を見直す「元気7点」の結果の分析
7月	【授業者と担当指導主事との事前打ち合わせ】 ○全体会「聞き方名人・話し方名人」の共通理解 ○一人一授業について 「対話的な場面設定の工夫」 「各教科の視点に沿った授業づくりの工夫」 「ICT端末の有効活用」	<ul style="list-style-type: none"> ・トピック研修（校内職員） ICT端末活用研修 （デジタルホワイトボード・Webアンケートフォーム） ・QU分析①

研修推進計画（8月～12月）

	はばプラⅡにそった授業改善研修	資質向上研修
8月	<ul style="list-style-type: none"> ○算数科、社会科、家庭科における、はばプラⅡを基にした授業づくりの構想 →算数科(低学年ブロック)・社会科(中学年ブロック) ・家庭科(高学年ブロック)に分かれて検討会を行う ○第2回研修会 	
9月	<ul style="list-style-type: none"> 【1回目の指導案提出】 【指導案検討会】（授業者と担当指導主事） ①はばプラⅡから対話的な学びへの授業改善に係わる部分を抽出 	<ul style="list-style-type: none"> ・「オンラインソフト活用 オンライン学習」（ICT端末推進担当） ・「ICT端末 教員向け研修」（NTT東日本） ※広沢中との連携（オンラインミーティング）
10月	<ul style="list-style-type: none"> ○参観の視点を決めて授業を実践する ○算数科、社会科、家庭科の指導案検討会（校内） 	<ul style="list-style-type: none"> ※広沢中 公開授業・実践発表（10/6） ・ICTに関する実践発表 講演会視聴（YouTube配信）
11月	<ul style="list-style-type: none"> ○全体会 <ul style="list-style-type: none"> ・算数科、社会科、家庭科の指導案検討会（校内） ○授業参観ウィーク 1日(月)～12日(金) 【2回目の指導案提出】 ○全体会 <ul style="list-style-type: none"> ・授業参観ウィーク 授業のふりかえり 【実践発表資料提出】（研修主任） 【指導案検討会】（授業者と担当指導主事） 【2回目の指導案提出】 	<ul style="list-style-type: none"> ・「元気7点②」結果の分析
12月	<ul style="list-style-type: none"> ○算数科、社会科、家庭科の授業検討会（校内） ○北小モデルの追加 	<ul style="list-style-type: none"> ・QU分析②

研修推進計画（1月～3月）

	はばプラⅡにそった授業改善研修	資質向上研修
1月	【プレ授業と指導案検討会】（1・4年は模擬授業） 【はばプラ推進校 公開授業】（後期指導主事訪問）	
2月	○後期指導主事訪問の反省 【報告書の提出】	<ul style="list-style-type: none">・「北小モデル」の追加、修正・ICT端末活用の精選・みどり市学力調査分析・「元気7点③」結果分析・学校評価や子どもの変容に基づいた授業分析、評価
3月	○今年度のまとめと学校課題の共有	<ul style="list-style-type: none">・市学力調査の考察・「北小モデル」の追加、修正・ICT端末活用の精選・次年度の方向性検討

第1回研修会

(木村主任指導主事、高柳指導主事、高草木指導主事)
「はばプラⅡを基にした授業づくり」・「ICTの活用」

イメージを共有

①児童生徒にとっての単元及び題材の課題を設定する。

②単元及び題材の解決（目標への到達）に向け、各単位時間をつなげる。

③多様な考え方に触れ、自分の学びを広げたり深めたりできるような対話的な場面をつくる。

④主体的に学び、学んだことを次の学習に活用できるように、各単位時間での「めあて」の設定と「振り返り」の場面をつくる。



校内研修の実践 東部管内指導主事研修会（前期指導主事訪問）

▶ 2年国語「たんぽぽのちえ」



①身につけさせたい資質・能力を育成する上で、適切な言語活動が設定されていたか。

○何を学ぶのか、どのように学ぶのか、どんな活動をするのかということが明確だった。

▲カード操作の後に、「どうしてそのような並びにしたのか」という活動があるとよい。

②目的を明確にした交流を通して、考えを広げ深めていたか。

○課題解決に向けて、①カードの並び替え→②発問→③根拠となる言葉を探すという流れがよい。

▲児童から出た意見をいかすためにも、正解と不正解の2パターンにしぼって、比較しながら全体で考えるとよい。

▶ 3年算数

「同じ数ずつ分ける計算のしかたを考えよう」



①児童の問いを基にめあてを立て、解決方法や結果の見通しをもたせ、主体的な学びを促していたか。

○導入で気づきを与えようとしていた。

○子どもから出た言葉や子供の必要感で本時のめあてを設定していた。

▲ブロックを使うと見通しが1つしか出てこないの、ブロックに限定しない方法もある。

②数学的な表現を用いて自他の思考過程を説明させるなど、対話的な学びを促し、考えを広げ深めていたか。

○多くの児童が主体的に学んでいた。

▲ひき算でもできる。だけど、わり算の方がいいということ対話で導きたい。

▲適用問題を解く時間の確保は大事だが、めあてを考えて、適用問題はカットする場合もある。

▶ 5年道徳「友のしょうぞう画」



①交流する場面において、多様な感じ方や考え方を伝え合い、比較するなど、目的に応じた学習活動が設定されていたか。

○補助発問により、多様な考えを引き出し、ねらいとする価値について多面的、多角的な見方ができるようにしていた。

○ハンドサインで意思表示することが有効だった。

▲考えさせたい内容をさらに明確にして発問を行う。

▲導入のアンケートや意見交流の場面でICTを活用していきたい。

②ねらいとする道徳的価値に対する思いや願い、考えを自分事として振り返らせていたか。

○手紙を書くことで、ねらいとする道徳的価値について自分事として考えることができた。

▲終末の時間が短くなり、本時の振り返りである「真の友情」についての、子供たちの意見交流ができなかった。

対話的な学びの工夫「北小モデル」の作成

多様な考え方に触れ、自分の学びを広げたり深めたりできるような対話的な場面をつくるために



対話的な学びの工夫(北小モデル) 教科【社会科】
対話的な学びを取り入れた授業作りのポイント

- 単元の初めを見いだせるよう、児童生徒の興味を惹き、解決することの焦点化に向けて話し合わせる。(つかむ)
- 解決の見通しをもてるよう、予想を誘い、異なる考えや方法、学習態度を話し合わせる。(つかむ)
- 社会的事実について、情報-事実(根拠)と「社会的事実の特色や意味-考え」を区別して交流させる。(基本的な流れより)
- 社会的事実について、情報-事実(根拠)と「社会的事実の特色や意味-考え」を区別して交流させる。(基本的な流れより)
- 結論を整理し共有させる。一人一人が考えた結論やその特徴などを話し合わせる。(まとめる)
- 多面的・多角的に構想(選択・判断)できよう、妥当性や効果、実現可能性等を話し合わせる。(まとめる)

- ▶ 全教科の視点に沿った授業づくりの工夫
- ▶ はばプラⅡ・はばプラICTバージョンから、対話的な学びへの授業改善に係わる部分を抽出
- ▶ 「北小モデル」を作成
- ▶ ICT端末の有効活用も含めて
- ▶ 「北小モデル」に今後の実践を追加
- ▶ 授業の視点を決めて、授業参観ウィークに実践

	指導のポイント	形態やツール・ICT活用等
つ	<ul style="list-style-type: none"> ○学級全体で、社会的事実についての疑問や調べたいことの共有や焦点化を図る。 →発言し合った内容の共通点や相違点を確認させたり、その理由を問いかけたりする。(基本的な流れより) →線や矢印等を活用し、内容を関連付け補足を付け加えたり、分類・整理したりして可視化していく。(指導のポイントより) 	<ul style="list-style-type: none"> ・ムーブノート(ミライシード)を使用し、選択形式や記述式で、内容の共通点や相違点を確認させる。 ・大型提示装置等での個々の振り返りの映し出し・紹介、共有する。
か	<p style="text-align: center;">指導のポイント</p>	
ま	<ul style="list-style-type: none"> ○一人一人が、解決に必要な情報を集め、読み取る。 →一人一人が集め、読み取った情報をペアやグループで補充・修正させる。(基本的な流れより) ○考えたことを話し合う。 →児童生徒の発言について問い返したり、新たな側面や立場等から考えられる視点を提示したりする。(指導のポイントより) →情報を共有させるとともに、社会的事実の特色や意味について、「情報-事実(根拠)」と「社会的事実の特色や意味-考え」を区別して交流させる。(基本的な流れより) →出し合った意見について、本時の解決とのつながりを小集団や学級全体で話し合わせる。(基本的な流れより) 	<ul style="list-style-type: none"> ・Google Jamboardを使用した、情報の整理、共有。 ・大型提示装置等を活用し、子供の意見・考えの根拠となる社会的事実の特色や意味を共有する。
め	<ul style="list-style-type: none"> ○学級全体で、単元の課題に関する結論を話し合う。 →ホワイトボードやプレゼンテーション(ICTの活用)、ワークシート等、児童生徒の実態や学習内容に適した方法で可視化し伝えさせる。【話す側の視点】(指導のポイントより) ○学級全体で、社会との関わり方や改善策を話し合う。 →ネームマグネットを用いたり、付箋紙を操作させたりするなどして、意見や立場を可視化して伝え合わせる。(指導のポイントより) →発表し合った一人一人の結論の共通点を多面的・多角的に比較させる。(基本的な流れより) 	<ul style="list-style-type: none"> ・オクリンク(ミライシード)のスライドショー。 ・大型提示装置等で、話し合いを通して最終的にまとめられた内容を表示する。

形態やツール ICT活用等

授業参観2週間（一人1授業）

- ▶ 期間中の参観は自由
- ▶ 対話的な学びの工夫（北小モデル）から、参観の視点を決めて授業を実践
- ▶ 授業者は授業参観シートに、対話的な学びを取り入れた授業づくりのポイント、ICT活用等を記入
- ▶ 参観者は、参観シートの参観の所見を記入
- ▶ 参観シートを活用しての授業研究会



授業参観シート 職員データ2021 → 12_研修 → 北小モデル → 授業参観シート にあります。

授業者がコピーして、授業日までに用意してください。参観者は授業参観シートを確認（印刷）して、授業を参観してください。

授業参観シート	
令和 3年 月 日 () 校時	授業者
教科	指導学級
指導場所	

対話的な学びを取り入れた授業作りのポイント

【授業者】

指導のポイント	形態やツール・ICT活用等
【授業者】 北小モデルを参考に、授業作りのポイントと指導のポイントを記入する	

参観者所見

参観者名	所見
	【参観者】 参観の所見を記入する

各学年の実践①



2年算数 「かけ算（2）」

視点

「何をどのように学んだのか」について理解を深められるよう、簡潔、明瞭、的確に説明し合う場面を設定する。

指導のポイント

- 問題の解決方法や結果を数学的な表現で示させる。
- 個別に追究した解決方法や結果を発表させる。
- 全体共有するための工夫として、「区切る」「つなぐ」「他者の考えを説明させる」等の問いかけを効果的に扱う。
- 個人の意見を収集し、大型掲示装置等で表示する。拡大、マーキング、色付け等を行い、似ている点や違う点など、着目させたい部分の焦点化を図る。

成果と課題

- ▷全員が前に出て答えを書き込む場面では、一人一人の活躍の場ができたが、多くの時間を要した。
- ▷考えを共有する場面では、児童同士の考えをつなぐことでかけ算の決まりに気付いたり、決まりを導いたりすることができた。

3年国語 「食べ物のひみつを教えよう」

視点

個で考える時間を確保し、児童生徒がめあてに対する考えをもった上で、目的を明確にした交流活動を行い、学びに広がりや深まりをもたせる。

指導のポイント

- 各自でテーマを設定し、テーマについてICT端末を用いて調べる活動を設定した。
- 同じテーマの児童で、考えを共有する時間を設けた。
- 考えを共有して分かったこと、気付いたことを振り返り、学級全体で共有する時間を設けた。

成果と課題

- ▷3年生はICT端末を使い慣れていて、調べたり、写真を撮って送ったりすることをスムーズに行えた。
- ▷同じテーマの児童同士で調べられたことを交流する場面では、仕入れた情報を付け足す時間がしっかりと、自分の考えを深められた。

各学年の実践②



5年算数 「分数と小数、整数」

視点

「何をどのように学んだのか」について理解を深められるよう、簡潔、明瞭、的確に説明し合う場面を設定する。

指導のポイント

- 個別に追究し、解決方法や結果を全体で共有する。
- 全体共有するための工夫として、「区切る」「つなぐ」「他者の考えを説明させる」等の問いかけを効果的に扱う。
- 大型提示装置や学習支援ソフトを活用して解き方を確認するとともに、分かったことやはっきりしないことを明らかにする。

成果と課題

- ▷「教師の方に子どもたちの意識が向いている」「学習規律が図られている」そのことが、「授業に向かう力」を培い、対話的な学びにつながる。
- ▷時間配分について、メインとなる活動に十分時間がかけられるように軽重をつけていくことを心がけていく必要がある。

6年図工 「立体作品の鑑賞」

視点

見方や感じ方を深められるよう、教材などを工夫して思考を可視化させたり多様な考えを引き出したりする。

指導のポイント

- 教師が作った作品について、意見を出し合う。
- グループで鑑賞し合い、良かった点や改善点を話し合う。
- 鑑賞し合ったことを、学級全体で共有する。

成果と課題

- ▷最初に教師が作った作品についての意見交換をしたことは、友達の作品を鑑賞し、意見交流するという、その後の活動に大変有効。
- ▷ワークシートや付箋を活用し、意見交換がしっかりできていた。改善点を見つけることも、否定的な意見ではなく、次につながるためのアドバイスという点が良かった。
- ▷先生の作品をいろいろな方向から見るといって鑑賞の視点を示したことで、友達の作品をしっかり鑑賞することができた。
- ▷意見交換の場面でICTを活用する方法もある。

各学年の実践③



6年国語 「みんなで楽しく過ごすために」	
視点	交流活動を通して学んだことを、学級全体で共有する時間を設定する。
指導のポイント	<ul style="list-style-type: none"> ○観点を基に、互いの意見を交流させ、考えに広がりや深まりをもたせる。 ○本時の授業で分かったことや次回への取り組み方等についてまとめて提示し、共有させる。 ○グループで話し合った内容をまとめたものを電子ファイルに記録・保存し、全体で共有する。
成果と課題	<ul style="list-style-type: none"> ▷意見交流が活発に行われていた。 ▷日頃から、話し合いのルールが徹底されている。 ▷グループの考えをまとめ、学習支援ソフトを使用して学級全体で共有することが、スムーズにできていた。 ▷授業の最後に振り返りシートを活用していた。

6年算数 「比とその利用」	
視点	「何をどのように学んだのか」を確認できるよう、解決方法の根拠とそのよさを話し合う場を設定する。
指導のポイント	<ul style="list-style-type: none"> ○ペアやグループで考えを話し合い、考えをお互いに説明する。 ○練習問題で解いた問題をどのように考えたかペアに説明する。 ○個別での考える時間を取り、ペアやグループで説明する時間をしっかりとる。 ○ペアでの話し合う時間を取り、自分の考えを伝えられるようにする。
成果と課題	<ul style="list-style-type: none"> ▷児童の意見を集約しながら確認をするときにハンドサインが有効。 ▷個々の考えからペアやグループでの活動（対話的な学び）へ、そして、最終的には全体での学び（対話的学び）につなげることを意識していくとよい。 ▷子どもたち一人一人との丁寧なやりとりが、学級全体の授業への意欲を高めていた。

各学年の実践④



4年 理科 「雨水のゆくえ」	
視点	<ul style="list-style-type: none"> ・自然事象に直接触れられる活動等を設定し、児童の興味関心を高める。 ・問題の設定や解決方法の立案、考察等の場面であらかじめ個人の考えを持たせた後、意見交換や議論をさせる。
指導のポイント	<ul style="list-style-type: none"> ○実験の様子を動画で記録し、班で考察する活動を学習支援ソフトで行った。 ○学習支援ソフトを用いたことで、児童が結果を共有しやすく、一斉のまとめでも、教師が児童の考えを容易に取り上げることができた。
成果と課題	<ul style="list-style-type: none"> ▷ノートと学習支援ソフトを併用し、絵に表せないことが「動画」という形で残るといって非常に有効であった。 ▷ICT端末で動画を撮ることが目的になってしまわないように、実験物をもっと観察させる等の手立てがあると有効であった。

5年 社会 「水産業のさかんな地域」	
視点	<ul style="list-style-type: none"> ・社会的事象を多面的・多角的に考察できるよう、他者の意見を聞いたり、話し合ったりする。
指導のポイント	<ul style="list-style-type: none"> ○ウェブ会議システムを活用し、青森県大間町のマグロ漁師とリモートで交流を行うことで、児童の興味関心を高める。 ○集まった情報を共有し、社会的事象の特色や意味について、交流させる。
成果と課題	<ul style="list-style-type: none"> ▷遠く離れた場所とリモートでつながっているということで、子どもたちの興味関心は高まり、最後まで楽しみながら取り組んでいた。 ▷オンライン授業が終わった後も、集まった情報を共有し、社会的事象の特色や意味について、交流させていた。

はばプラ研修会 算数（1年）



- ・低学年ブロック相談・指導案検討会
- ・授業参観ウィーク授業実践の振り返り



模擬授業（全職員で） 1/14

1/25
「20より大きいかずをかぞえよう」



- 東部教育事務所
- ・青山指導主事の参観授業
 - ・青山指導主事との指導案検討会

公開授業研究会 算数（1年）

教科：算数

単元：20より大きいかずをかぞえよう

（本時のねらい）

100までの数の表を用い、数の並び方の規則性を考える活動を通して、数の大小や順序を説明できるようにする。



視 点

□多様な考えに触れ、自分の学びを広げたり深めたりできるような対話的な場面の設定は有効であったか。

◆考えを深める場面で、数を比べたり、並べたりする活動を行い、教師からの投げかけに対して、発表をする機会を多く設ける。

□主体的に学び、学んだことを次の学習に活用できるように、「めあて」の設定と「振り返り」の場面の設定は有効であったか。

◆児童の言葉を用いためあての設定とまとめ。「めあて」を主語として、「まとめ」を考える。

□主体的・対話的で深い学びにするために、形態やツール・ICT活用は有効であったか。

◆適用問題後に、ICT端末を用いてカレンダーの汎用性を確認する。

有 効

- 「めあて」の追究の時に、児童の考えをもとに数の表で確認できた。
- 子どもの発言を生かしつつ、必要なところは「一の位」「十の位」という言葉を確認したことで、位に着目できた。
- 友達の発言を聞いて、すぐにハンドサインが出せていた。ハンドサインにより、発言者以外の意見が見えた。
- 数の並びに興味をもって意欲的に取り組んでいた。

- 「めあて」を主語として、「まとめ」を考えるという取り組みは、授業に一本柱が通ってよい。
- 「めあて」をていねいに確認できたので、ゴールが明確になっていた。
- 「まとめ」の前あたりから、全員が理解できている感じが伝わってきた。

- カレンダーは日常的なものだったので、意欲的に取り組めた。
- カレンダーは行が下にいてもなぜ10ずつ増えていないのかを考えることで、活用力を高めていた。
- 日常生活にある表として、カレンダーを活用したことが深い学びにつながった。

改 善

・「めあて」の追究のときに、設定した5分が短かったのか、時間がかかってしまった。ただ、対話的な学びも大事にしたいので、バランスを考えていきたい。

・ICT端末は通信状況が悪くなったが、そのための準備があつてよかった。
・ICT端末の置き場や置き方のルールを共通理解する必要がある。

はばプラ研修会 社会（4年）



- ・ 中学年ブロック 指導案検討会
- ・ 授業参観ウィーク授業実践の振り返り



1/25
「 特色ある地域と人々の暮らし
～国際交流のさかな町 太田市～」



- 東部教育事務所
- ・ 須永指導主事の参観授業
 - ・ 須永指導主事との指導案検討会



プレ授業 1/21



公開授業研究会 社会（４年）

教科： 社会

単元： 特色ある地域と人々の暮らし
～国際交流のさかんな町 太田市～

（本時のねらい）

太田市の行政や市民の取組について調べ、話し合う活動を通して、市が共生できるまちづくりのために、日本人と外国人が共に暮らしやすい環境づくりに努めていることを表現している。



視 点

有 効

改 善

□多様な考えに触れ、自分の学びを広げたり深めたりできるような対話的な場面の設定は有効であったか。

◆追究する過程で、一人一人が集め、読み取った情報をグループで補完・修正させる。

○友達の話聞きながらのハンドサインで反応していた。
○思考ツール（クラゲチャート）を活用したことで、活動が明確になり、ペアで意見を交流する場面でも、友達の意見を分かりやすく整理できていた。
○単元内でグループやペアなど、多様な形態で意見交流の場を設定できていた。
○資料の読み取りがあまりできていないところは、「協力して」読み取れるよう促していた。

・友達の意見を聞いて補完、修正できるように、ハンドサインを見直す必要がある。

□主体的に学び、学んだことを次の学習に活用できるように、「めあて」の設定と「振り返り」の場面の設定は有効であったか。

◆導入で、単元全体の課題を確認する。

○前時の「まとめチャート」を示したことで、本時の見通しがもて、さらに単元全体の課題を再確認できた。
○「やることリスト」や「タイマー」を活用して、活動内容や時間の見通しがもてた。
○「まとめ」のキーワードの提示があることで児童の思考のより所となれた。

□主体的・対話的で深い学びにするために、形態やツール・ICT活用は有効であったか。

◆太田市（行政）や市民の取組について、ICT端末を活用して調べる。その際、あらかじめ情報を精選しておく。

○資料を精選しておくことで、共通の有効な資料をもとに思考を深められた。
○資料内容が資料1→5と難易順になっていることで、取り組みやすかった。
○情報量が多めであったが、全てを読み取れなかった子も、対話によって補完、修正ができていた。

・ICT端末の使い方やルールを見直す必要がある。
・多言語刊行物について、もう少し活用できたらよかった。
・タッチペンやマウスがあれば、ICT端末操作がしやすくなる。

はばプラ研修会 家庭科（6年）



- ・ 高学年ブロック 指導案検討会
- ・ 授業参観ウィーク授業実践の振り返り



- ・ プレ授業 1/14

1/25 「 持続可能な社会をいきる 」



- ・ みどり市教育委員会
神山課長補佐の参観授業



- ・ 神山課長補佐との指導案検討会

公開授業研究会 家庭科（6年）

教科：家庭科

単元：持続可能な社会を生きる

（本時のねらい）

家庭で撮った写真を基に自分たちのグループで実践することを話し合うことを通して、取り組みやすく継続できる、環境に配慮した生活のための実践計画を考えることができる。



視 点	有 効	改 善
<p>□多様な考えに触れ、自分の学びを広げたり深めたりできるような対話的な場面の設定は有効であったか。</p>	<p>◆追求の場面では、3・4人のグループで自分の考えを伝え合い、観点にそって実施計画を練り上げる。</p>	<p>○共通の話題から始まり、話し合いが始めやすかった。 ○3～4人の人数設定がよく、意見の交流がしっかりできていた。 ○友達の意見をもとに、次回までに調べてくることを確認できていた。 ○話し合いの手順や観点をしっかり示していた。</p>
<p>□主体的に学び、学んだことを次の学習に活用できるように、「めあて」の設定と「振り返り」の場面の設定は有効であったか。</p>	<p>◆単元を通して、持続可能な社会を生きるために『大北小SDGs』を作ることを目的とし、その観点を繰り返し確認する。</p>	<p>○「大北小SDGs」を作るという目標を設定したことで、最高学年としての自覚を促した。 ○「大北小SDGs」を作るという身近な場面設定ができたので、学校と家庭をつなぐ情報発信のPDCAサイクルにつながった。</p>
<p>□主体的・対話的で深い学びにするために、形態やツール・ICT活用は有効であったか。</p>	<p>◆家庭で撮影した画像をクラスで共有し、自分の考えの根拠や理由として活用する。</p>	<p>○事前に撮影した写真を見せ合うことで、友達がどのような取り組みをしているのか知ることができ、自分の考えを深めることにつながっていた。 ○学習支援ソフトを使用したことで、各自が調べたことを画像やコメント等も入れながら、伝わりやすく表現できていた。 ○他のグループの活動を全体共有できていた。</p>

・グループで実践できることをまとめられない班があったので、話し合いの時間を長めに設定できるとよかった。
 ・話し合いのルールを学校で共通理解できるようにしていきたい。

・学年で取り組んだことを基に、学校としての活動（大北小SDGs）につなげていきたい。

資質向上研修（トピック研修）

	内 容	担 当
①	ICT端末活用 「学習支援ソフトの活用」	ICT端末推進担当 ICTサポーター
②	ノートづくりの方法・ 学習支援ソフトの活用	学力向上担当
③	「めあて」と「振り返り」	校内職員
④	ハンドサインの活用術	校内職員
⑤	ICT端末活用 「デジタルホワイトボード」 「Webアンケートフォーム」	情報担当
⑥	ICT端末活用 「学習支援ソフト」 「表計算ソフト」	校内職員

① ICT活用研修「学習支援ソフトの活用」
(ICT端末推進担当、ICTサポーター)



② 「ノートづくりの方法・学習支援ソフトの活用」
(学力向上担当)



ミドルリーダーの活躍

資質向上研修（トピック研修）

③はばプラⅡ研修講座の報告
「めあて」と「振り返り」



④ハンドサインの活用術



⑤ICT端末活用

「デジタルホワイトボード」
「Webアンケートフォーム」

⑥ICT活用

「学習支援ソフト」
「表計算ソフト」

ICT研修会の様子

「ICT端末 教員向け研修」
(NTT東日本 群馬支店)

「オンライン学活試行」



児童アンケートから

(学校評価アンケート)

	R2 2学期	R3 2学期	
④「授業がわかる」	90.5%	93.3%	↑
⑤「授業が楽しい」	86%	86.5%	→
⑥授業中の学習習慣（発言、交流、ノート等）がきちんとできている。	84.4%	90.4%	↑

⇒④「授業がわかる」と感じている児童の割合は高い数値を持続できている。

⇒⑤「授業が楽しい」と感じながら、興味関心をもって、主体的に学んでいる児童の割合は、上昇していない。その原因を追究する必要がある。

⇒⑥授業中の発言や交流ができていると感じている児童は多い。

4 成果と課題

対話的な学びを取り入れた授業づくり

○ 成 果

- ・子どもたちの考えをつなげて答えを導き出すことで、「みんなで解けた」という思いを共有することができた。
- ・発表の仕方を工夫するようになり、全員が発表の経験ができた。
- ・自力解決が難しい児童でも、対話を通して「きっかけ」「学びの芽」を得ることができた。
- ・ハンドサインを使って意思表示をし、付け足しにより活発に意見が出るようになった。
- ・対話が活発になり、学びが深まるような授業づくりがすすみ、日常の授業の中でも行えるようになってきた。
- ・お互いの意見を知ることで、自信をもって挙手できる児童が増えた。
- ・相談や対話が楽しいと感じる児童が増えてきた。
- ・友達の考えを聞くことにより、自分の考えをもつことができた。
- ・自立活動において、話し合う活動を取り入れることにより、考えを共有したり、理解し合ったり、深化させたりすることができた。（特別支援学級）

対話的な学びを取り入れた授業づくり

● 課題

- ・ コロナ禍で、子ども同士の対話があまりできなかった。マスクを外してもよい生活に戻った時には、発表の声の大きさなど、教えなければいけないことがたくさんある。
- ・ 話し合いの視点を明確に示さないと、内容が深まらないことがあった。
- ・ 発表のルールを検討する必要がある。
- ・ 相手の考えをよく聞くことができない児童は、考えを比べたり、深めたりできない。
- ・ 児童数が少人数のため、多様な考えに触れる学びは設定しづらい。また、全員がそろそろ時間を意識的に設定できない。（特別支援学級）

ICT端末を取り入れた授業づくり（ICT活用）

○ 成 果

- ・ 多様な意見に触れられ、話し合いが活発になった。
- ・ 意見や考えを共有、集約がしやすい。
- ・ ICT端末操作の技能が向上した。
- ・ データとして残しやすく、振り返りもしやすい。
- ・ 机上有る教材が減り、集中して授業に臨めた。
- ・ 書くことに抵抗感をもち、取り組みに時間がかかる児童も、進んで学べた。
- ・ 発展的な学習として、ドリルアプリに取り組むことにより、学習意欲を維持できた。

ICT端末を取り入れた授業づくり（ICT活用）

● 課題

- ICT端末の効果的な活用場面を精選する必要がある。
- ICT端末操作に個人差がある。
- 児童の手元にどのように学習の成果を残していくか。
- 時間配分が難しくなった。
- 実態把握が難しい。
- 指導者の技能向上が求められる。
- 文字を書く量が減るので、学習の習熟が心配なところもある。
- ドリルは向上心やチャレンジ心をもたせることが難しかった。
- 全体共有や比較の場で、さらに活用できるようにしていきたい。

今後の見通し ～来年度の研修に向けて～

- 「はばプラⅡ」「はばプラICTバージョン」を活用した、主体的・対話的で深い学びにするための授業づくりを継続
- ICTの積極的な活用と活用場面の精選
- 組織的な研修を進め、教師の授業力やICT活用スキルの向上